

UK05-PDF-001 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者と事業者の関係について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事業者は運行管理者が安全確保のため必要な業務を適切に行えるよう、必要な権限を与え、その意見を尊重する。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「路面凍結時の制動について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「急ブレーキほど必ず直進安定性が増す。」とした。

A. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

I. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

U. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

E. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運行管理業務を実効的に行うには必要な権限と事業者の支援が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。急操作はスリップを招きやすい。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-002 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「補助者が点呼を行った際、運転者の体調不良など通常と異なる事態を確認した。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「運行管理者への報告は月末にまとめて行えばよい。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「同じ速度で走行中、運転者の反応時間が1秒から2秒に延びた場合、空走距離はどうなるか。」に対し、回答「おおむね半分になる。」とした。

A. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

I. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

U. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

E. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。即時の安全判断が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。逆に長くなる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-003 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が運転者の乗務可否を判断する際の基本姿勢として適切なものはどれか。」に対し、回答「売上目標を達成するため安全上の懸念を記録しない。」とした。
- B.【停止距離（空走＋制動）】設問「高速道路で速度感覚が鈍ることへの対策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「速度計を適宜確認し、十分な車間距離を保ち、早めの減速を心掛ける。」とした。
- A. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。
- I. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。
- U. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。
- E. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。懸念事項は適切に記録・対応する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。高速では制動距離が長くなるため客観的な速度確認と車間距離が重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-004 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が事業者に安全上必要な設備改善を提案したが、費用を理由に先送りされている。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「費用がかかるため以後は安全上の意見を出さない。」とした。
- B.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「カーブ走行時の遠心力について正しいものはどれか。」に対し、回答「停止中に最大となる。」とした。
- A. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。
- I. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。
- U. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい／遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。
- E. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り／遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。費用だけを理由に安全上の懸念を無視できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。停止中の遠心力は問題にならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-005 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「点呼結果、運行記録、事故・ヒヤリハット情報を運行管理者が活用する目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「個々の運転者や運行のリスクを把握し、指導・運行計画・再発防止に反映するためである。」とした。

B.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「同じ速度でカーブを曲がる場合、一般に旋回半径が小さくなると遠心力はどうか。」に対し、回答「必ずゼロになる。」とした。

ア. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

イ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

ウ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

エ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。記録は安全管理の改善に活用して初めて価値がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。走行中のカーブでは生じる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-006 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が補助者へ業務を任せる場合の考え方として適切なものはどれか。」に対し、回答「補助者に教育せず、経験だけで判断させる。」とした。

B.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「急ブレーキで積荷が前方へ移動しようとする理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「タイヤが前方へ押すためである。」とした。

ア. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

イ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

ウ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

エ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。適切な教育が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。主因は慣性である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-007 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者の安全上の判断を事業者が営業上の理由で変更しようとしている。最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「売上が大きい案件なら安全基準を一時的に緩める。」とした。

B.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「衝突時の衝撃を小さくする安全運転上の基本として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「速度を抑える。速度が高いほど衝突時のエネルギーが大きくなり、被害が重大化しやすい。」とした。

A. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

イ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

ウ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

エ. 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全基準は案件規模で変えない。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。速度管理は事故時の被害軽減にも直結する。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-008 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「常時使用する労働者を新たに雇い入れる場合の健康診断として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者本人が健康だと言えば省略できる。」とした。

B.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「重心の高い貨物車がカーブで転倒するリスクを下げる方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「積荷の左右偏りは転倒リスクに影響しない。」とした。

A. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい。

イ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

ウ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

エ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。本人申告のみで代替できない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。偏荷重は安定性に影響する。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-009 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「常時使用する労働者に対する定期健康診断の実施頻度として正しいものはどれか。」に対し、回答「1年以内ごとに1回、定期に実施する。」とした。

B.【死角・内輪差・外輪差】設問「大型トラックの死角に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「後方だけが死角で側方には死角がない。」とした。

A. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

I. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

U. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

E. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。定期健康診断は原則1年以内ごとに1回である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。側方にも死角がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-010 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「深夜業を含む特定業務に常時従事する労働者の健康診断として正しいものはどれか。」に対し、回答「深夜業には健康診断の頻度に特別な扱いはない。」とした。

B.【死角・内輪差・外輪差】設問「左折時の巻き込み事故を防ぐ方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「左ミラーだけ見て歩行者信号は確認しない。」とした。

A. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

I. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

U. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

E. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。特定業務として扱われる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。周囲全体の確認が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-011 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「健康診断個人票の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「健康診断後すぐ廃棄してよい。」とした。
- B.【死角・内輪差・外輪差】設問「後退時に最も適切な安全確認はどれか。」に対し、回答「可能な限り後退を避け、必要な場合は周囲の安全を直接確認し、必要に応じ誘導者を活用してゆっくり後退する。」とした。
- ア. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り／死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。
- イ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい／死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。
- ウ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り／死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。
- エ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい／死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。法定保存が必要である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。機器を補助として使い、直接確認・誘導も組み合わせる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-012 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「健康診断で要再検査・要精密検査の所見があった運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「異常所見があれば理由を問わず即時解雇する。」とした。
- B.【死角・内輪差・外輪差】設問「外輪差について最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「後輪が前輪より内側を通ることだけをいう。」とした。
- ア. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り／死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。
- イ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい／死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。
- ウ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい／死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。
- エ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り／死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。適切な医学的判断と就業措置を検討する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。それは内輪差の説明に近い。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-013 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「深夜運行が多い運転者について、健康診断管理で最も適切なものはどれか。」に対し、回答「深夜業該当性を確認し、6か月以内ごとの健康診断と結果フォローを計画的に行う。」とした。

B.【死角・内輪差・外輪差】設問「交差点で自転車が大型トラックの左側を並走している。運転者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「自転車側が避けると考えそのまま左折する。」とした。

A. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

イ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

ウ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい / 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい。

エ. 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り / 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。深夜業の就業実態に応じて法定頻度を管理する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。巻き込みリスクが高い。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-014 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「睡眠時無呼吸症候群（SAS）が事業用自動車の安全運転上問題となる主な理由はどれか。」に対し、回答「必ず視力が急激に失われる病気だからである。」とした。

B.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「暗いトンネルから明るい屋外へ出た直後などに、目が明るさへ適応する現象を何というか。」に対し、回答「ハイドロプレーニングである。」とした。

A. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

イ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

ウ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

エ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。主な問題は睡眠・覚醒への影響である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。タイヤと水膜の現象。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-015 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SAS対策として事業者が行う取組で最も適切なものはどれか。」に対し、回答「検査で疑いがあっても受診を勧めない。」とした。

B.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「明るい場所から暗いトンネルへ入った直後、見えにくくなる現象への対処として適切なものはどれか。」に対し、回答「暗順応に時間がかかることを見込み、進入前から速度を抑え、前照灯等を適切に使う。」とした。

ア. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

イ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

ウ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

エ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。精密検査・治療につなげる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。暗所への適応には時間がかかる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-016 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SASの治療を受けている運転者への対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「SASと診断された時点で治療効果に関係なく永久に運転禁止とする。」とした。

B.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「夜間に対向車の強い前照灯で一時的に見えにくくなる現象に最も近いものはどれか。」に対し、回答「内輪差である。」とした。

ア. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

イ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

ウ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

エ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り／視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。診断だけで一律永久禁止とするものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。旋回軌跡の現象。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-017 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「点呼時に運転者が『昨夜ほとんど眠れず、強い眠気がある』と訴えた。SA Sの有無が未診断の場合でも最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「その日の安全な乗務可否を慎重に判断し、必 要に応じ乗務を見合わせるとともに受診等につなげる。」とした。

B.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「夜間、対向車のライトと自車のライトが重なる付近で歩行者 などが見えにくくなる現象として知られるものはどれか。」に対し、回答「ハイドロプレーニング現象である。」と した。

ア. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

イ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

ウ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

エ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。診断名の有無より、現時点の安全運転能力を重視す る。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。水膜でタイヤが浮く現象。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-018 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SAS対策におけるスクリーニング検査の位置付けとして正しいものはどれ か。」に対し、回答「スクリーニング陰性なら将来も絶対にSASにならない。」とした。

B.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「速度が高くなると運転者の視野に起こりやすい変化として最 も適切なものはどれか。」に対し、回答「速度と視野には全く関係がない。」とした。

ア. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

イ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

ウ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい。

エ. SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい / 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。将来まで完全否定する検査ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。速度は視覚情報処理に影響する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-019 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【脳・心臓疾患の予防】設問「脳・心臓疾患のリスク管理で特に重要な生活習慣上の要素として適切なものはどれか。」に対し、回答「運転技術だけ高めれば生活習慣は無関係である。」とした。

B.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット情報を収集する主な目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故に至らなかった危険事例から共通要因を見つけ、重大事故の未然防止に生かすためである。」とした。

A. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

イ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

ウ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

エ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。生活習慣は健康リスクに関係する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。小さな兆候を分析して事故の芽を摘むことが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-020 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【脳・心臓疾患の予防】設問「運転中に突然、片側の手足の力が入りにくい、ろれつが回らない等の症状が現れた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「本人に運転を継続させながら様子を見る。」とした。

B.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ハインリッヒの法則を安全管理に活用する際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「重大事故だけを調べればよく、軽微な事例は無視する。」とした。

A. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

イ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

ウ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

エ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全な停止と救急対応を優先する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。小さな兆候の分析が重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-021 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【脳・心臓疾患の予防】設問「運転者が胸部圧迫感、冷汗、息苦しさを訴えている。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「心臓疾患の可能性を考え、乗務を中止し、症状に応じて救急要請を含む医療対応を行う。」とした。
- B.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット報告制度を機能させる方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故でなければ記録させない。」とした。
- ア. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。
- イ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。
- ウ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。
- エ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。心筋梗塞等の可能性がある症状は緊急性を考慮する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。未事故事例も重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-022 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【脳・心臓疾患の予防】設問「健康診断で血圧・血糖・脂質に複数の異常所見がある運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「症状がないので一切対応しない。」とした。
- B.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「同じ交差点で複数の運転者から『左折時に自転車を見落としかけた』という報告があった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「交差点名を記録せず報告を破棄する。」とした。
- ア. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。
- イ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。
- ウ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。
- エ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。無症状でもリスク管理が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。場所情報は分析に有用。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-023 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【脳・心臓疾患の予防】設問「長時間労働が続く運転者の脳・心臓疾患予防として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「休日を減らして運行を均等化する。」とした。

B.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット分析で最も避けるべき考え方はどれか。」に対し、回答「『注意不足だった』だけで原因分析を終え、道路環境・勤務状況・車両・手順などを調べないこと。」とした。

A. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

イ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り。

ウ. 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

エ. 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい／ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。休養確保が重要である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。抽象的な精神論だけでは再発防止策が具体化しにくい。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-024 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「事業用自動車運転者の飲酒運転防止策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「点呼時に臭いがしなければ検知器は不要である。」とした。

B.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドライブレコーダーの安全管理上の主な活用方法として適切なものはどれか。」に対し、回答「録画していれば運転者教育は不要である。」とした。

A. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

イ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

ウ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

エ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。アルコール検知器による確認が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。機器は教育を代替しない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-025 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「営業所におけるアルコール検知器の備付けについて正しいものはどれか。」に対し、回答「対象となる自動車運送事業者は営業所ごとにアルコール検知器を備える。」とした。
- B.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「デジタルタコグラフから把握しやすい情報として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「道路の将来の事故を完全に予言する情報である。」とした。
- ア. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。
- イ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。
- ウ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。
- エ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。営業所ごとの備付けが求められている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。未来を完全予測するものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-026 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「遠隔地で乗務を開始・終了する運転者の酒気帯び確認として適切なものはどれか。」に対し、回答「本人の声だけで必ず酒気帯びなしと判定する。」とした。
- B.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドラレコとデジタコを組み合わせる利点として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故が起きてもデータ確認は不要となる。」とした。
- ア. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。
- イ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。
- ウ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り／ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。
- エ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい／ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。機器確認が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故分析にデータを活用する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-027 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「アルコール依存症が疑われる運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「点呼時に陰性なら飲酒問題への支援は一切不要である。」とした。

B.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「デジタコで急加速・急減速が多い運転者が見つかった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「実際の運行状況やドラレコ映像等も確認し、個別の原因に応じた指導を行う。」とした。

ア. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り / ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

イ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい / ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

ウ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り / ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

エ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい / ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。飲酒習慣の問題は長期的安全管理に関わる。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。データを起点に背景を確認し、具体的な指導へつなげる。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-028 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「翌朝早い乗務がある運転者への飲酒指導として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「水を多く飲めば短時間で必ずアルコールは消える。」とした。

B.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドラレコ映像を社内教育に使う際の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「顔や位置情報が含まれても管理不要である。」とした。

ア. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り / ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

イ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい / ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい。

ウ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい / ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

エ. アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り / ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。水分だけで急速に分解できない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。個人情報等への配慮が必要。2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-029 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【ストレスチェック】設問「2026年8月時点のストレスチェック制度について正しいものはどれか。」に対し、回答「常時50人以上の労働者を使用する事業場は実施義務があり、50人未満は現時点では努力義務である。」とした。
- B.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「運行管理者が適性診断の結果を日常の安全指導へ反映する方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「結果を本人に知らせず処分にだけ使う。」とした。
- ア. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。
- イ. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- ウ. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- エ. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。50人未満の義務化は改正済みだが、施行は2028年4月1日である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全指導に生かすことが重要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-030 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【ストレスチェック】設問「高ストレス者として選定された労働者が医師による面接指導を申し出た場合の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「面接指導は制度上認められていない。」とした。
- B.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「適性診断で『焦りやすい傾向』が示された運転者への指導として適切なものはどれか。」に対し、回答「結果を他の運転者に公開して恥をかかせる。」とした。
- ア. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- イ. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。
- ウ. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- エ. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。医師面接制度がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。プライバシー配慮が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-031 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ストレスチェック】設問「ストレスチェック結果の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「管理者全員が自由に個人結果を閲覧できるようにする。」とした。

B.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「一般的な指導及び監督を効果的に行う方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「法定の指導項目を網羅しつつ、事故歴・適性診断・運行データ・健康状態等から個人ごとの重点項目を設定する。」とした。

A. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

I. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

U. ストレスチェックの回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。

E. ストレスチェックの回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。閲覧権限は厳格に扱う。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。体系的な指導と個別化を組み合わせることが有効である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-032 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走＋制動）】設問「停止距離の構成として正しいものはどれか。」に対し、回答「車間距離から車長を引いた距離をいう。」とした。

B.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「指導後の効果確認として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故が起きるまで改善状況を確認しない。」とした。

A. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。

I. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。

U. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

E. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り / 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。車間距離の定義ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故前に評価する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-033 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【停止距離（空走＋制動）】設問「速度が高くなると停止距離が長くなる主な理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「空走距離が速度に応じて増え、制動距離も速度上昇に伴って大きく増えるためである。」とした。
- B.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「初任運転者等の特定運転者への指導について最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「高齢運転者には一律に運転を禁止する。」とした。
- ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。
- イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい。
- エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。速度上昇は空走距離と制動距離の双方を増大させる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一律禁止ではなく適切な診断・指導を行う。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-034 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【停止距離（空走＋制動）】設問「同じ反応時間なら、空走距離に最も直接影響するものはどれか。」に対し、回答「タイヤの溝だけである。」とした。
- B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「ハイドロプレーニング現象として正しいものはどれか。」に対し、回答「長い下り坂でブレーキが過熱する現象である。」とした。
- ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。
- イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。
- ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。
- エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。タイヤ溝は主として制動性能に係る。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。それはフェード現象に近い。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-035 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走＋制動）】設問「運転者の疲労が強い場合、停止距離にどのような影響が考えられるか。」に対し、回答「疲労は制動装置にしか影響しない。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「長い下り坂でフットブレーキを多用し、摩擦材が過熱して制動力が低下する現象はどれか。」に対し、回答「フェード現象である。」とした。

ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者側の反応に影響する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。ブレーキ摩擦材の過熱による制動力低下がフェードである。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-036 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走＋制動）】設問「雨天時に乾燥路面と同じ速度・車間距離で走ることが危険な理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「雨で空気抵抗が増えるので必ず短く止まれる。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「ペーパーロック現象として正しいものはどれか。」に対し、回答「強風で車体が横に流される現象である。」とした。

ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全側に短くならない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。横風の影響。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-037 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走+制動）】設問「重い荷物を積んだトラックの停止について最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「積載状態によって車両の運動エネルギーや制動特性が変わるため、十分な車間距離と早めの減速が必要である。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）】設問「積雪路での発進・制動として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「カーブ内で強くブレーキを踏む。」とした。

ア. 停止距離（空走+制動）の回答は正しい/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り。

イ. 停止距離（空走+制動）の回答は誤り/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい。

ウ. 停止距離（空走+制動）の回答は正しい/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい。

エ. 停止距離（空走+制動）の回答は誤り/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。積載状態は車両挙動と制動余裕に影響する。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。カーブ前に減速する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-038 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走+制動）】設問「路面凍結時の制動について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「急ブレーキほど必ず直進安定性が増す。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）】設問「凍結が特に起こりやすい場所として注意すべきものはどれか。」に対し、回答「屋内駐車場の停止中だけである。」とした。

ア. 停止距離（空走+制動）の回答は正しい/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい。

イ. 停止距離（空走+制動）の回答は誤り/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り。

ウ. 停止距離（空走+制動）の回答は誤り/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい。

エ. 停止距離（空走+制動）の回答は正しい/雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。急操作はスリップを招きやすい。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。走行路の局所凍結が問題。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-039 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走＋制動）】設問「同じ速度で走行中、運転者の反応時間が1秒から2秒に延びた場合、空走距離はどうなるか。」に対し、回答「おおむね半分になる。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「下り坂でブレーキ過熱を防ぐ運転として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「下り坂に入る前に適切な低いギアを選び、エンジンブレーキ等を活用して速度を抑える。」とした。

ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。逆に長くなる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。補助制動を活用しフットブレーキへの負担を減らす。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-040 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離（空走＋制動）】設問「高速道路で速度感覚が鈍ることへの対策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「停止距離は一般道と同じと考える。」とした。

B.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「雨天時に前車へ接近しやすくなるリスクを減らす対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「前車の尾灯が見えるので接近しても安全である。」とした。

ア. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

イ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい。

ウ. 停止距離（空走＋制動）の回答は正しい／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

エ. 停止距離（空走＋制動）の回答は誤り／雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。高速ほど停止距離は長くなる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。追突余裕が減る。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-041 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「カーブ走行時の遠心力について正しいものはどれか。」に対し、回答「速度が高いほど大きくなり、同じ条件なら速度の2乗に比例して増大する。」とした。

B.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「濃霧時の運転として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「ハイビームを使えば必ず霧の先まで見える。」とした。

ア. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

イ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

ウ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

エ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。カーブでは速度上昇により横方向の力が急増する。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。霧で光が散乱し見えにくくなる場合がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-042 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「同じ速度でカーブを曲がる場合、一般に旋回半径が小さくなると遠心力はどうなるか。」に対し、回答「車両重量だけで決まり半径は無関係である。」とした。

B.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「強い横風を受けやすい場所で大型トラックが注意すべき点はどれか。」に対し、回答「風が強いほど車線変更を頻繁に行う。」とした。

ア. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

イ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

ウ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

エ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。半径も重要である。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。不要な車線変更は避ける。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-043 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「急ブレーキで積荷が前方へ移動しようとする理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「エンジン回転数が下がると遠心力が前向きになるためである。」とした。

B.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「台風接近で暴風・大雨が予想されている場合の運行管理者の判断として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「気象・道路・通行止め情報を収集し、安全確保が困難なら運行中止・経路変更・待機を判断する。」とした。

ア. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

イ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

ウ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

エ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。その説明は不適切である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。異常気象時は事前情報と安全側の運行判断が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-044 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「衝突時の衝撃を小さくする安全運転上の基本として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「車体が大きければ速度に関係なく衝撃は一定である。」とした。

B.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「道路が冠水しており水深が分からない場所へ進入しようとしている。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「速度を上げればエンジンへの浸水を防げる。」とした。

ア. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

イ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

ウ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

エ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。速度は重要な要素である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。高速進入は危険を増す。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-045 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【遠心力・慣性力・衝撃力】設問「重心の高い貨物車がカーブで転倒するリスクを下げる方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「カーブ手前で十分減速し、急ハンドルを避け、積荷の偏りや重心位置にも注意する。」とした。

B.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「大雪で立ち往生の可能性が高い場合の事前対策として適切なものはどれか。」に対し、回答「降雪時ほど車間距離を短くする。」とした。

ア. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

イ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

ウ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は正しい / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい。

エ. 遠心力・慣性力・衝撃力の回答は誤り / 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。速度・操舵・積載状態を総合的に管理する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。車間距離を大きく取る。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-046 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【死角・内輪差・外輪差】設問「大型トラックの死角に関する説明として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「ミラーを付ければ全方向が完全に見える。」とした。

B.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「KYT（危険予知トレーニング）の目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「法令の条文番号だけを暗記することを目的とする。」とした。

ア. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

イ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

ウ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

エ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。ミラーでも完全に消えない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。実際の場面で危険を予測することが目的である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-047 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【死角・内輪差・外輪差】設問「左折時の巻き込み事故を防ぐ方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「速度を上げて短時間で左折する。」とした。

B.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「荷主先で待たされ、出発が予定より2時間遅れた運転者が焦っている。ヒューマンエラー対策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「焦りが速度超過や確認不足につながることを予測し、運行計画を見直して無理な挽回運転をさせない。」とした。

ア. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

イ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

ウ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

エ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。高速左折は危険。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。時間的圧力は判断・確認行動に影響するため、組織的に無理を除く必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-048 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【死角・内輪差・外輪差】設問「後退時に最も適切な安全確認はどれか。」に対し、回答「後方死角は運転者の責任範囲外である。」とした。

B.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「同じ運転者が右左折時の確認漏れを繰り返している。原因分析として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故になっていないので分析しない。」とした。

ア. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

イ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

ウ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

エ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。後退時の安全確認は重要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故前の兆候として分析価値がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-049 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【死角・内輪差・外輪差】設問「外輪差について最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「旋回時に車体後部などが外側へ振り出すことで、周囲の車両や構造物に接触する危険がある。」とした。

B.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「KYTで『住宅街の見通しの悪い交差点を左折する』場面を扱う場合、最も良い行動目標はどれか。」に対し、回答「左ミラーを1回見ればその後は確認しない。」とした。

ア. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

イ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

ウ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい。

エ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。車体後部のオーバーハング等により外側への振り出しに注意する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。状況は変化するため継続確認が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-050 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【死角・内輪差・外輪差】設問「交差点で自転車が大型トラックの左側を並走している。運転者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「自転車側が避けると考えそのまま左折する。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「180kmの区間を3時間で走行した。平均速度は何km/hか。」に対し、回答「45km/h。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

ア. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

イ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

ウ. 死角・内輪差・外輪差の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. 死角・内輪差・外輪差の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。巻き込みリスクが高い。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。180÷4に相当し条件と合わない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-051 難易度1

- 次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。
- A.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「暗いトンネルから明るい屋外へ出た直後などに、目が明るさへ適応する現象を何というか。」に対し、回答「ハイドロプレーニングである。」とした。
- B.【速度・距離・時間の計算】設問「150kmを平均75km/hで走行する場合、休憩を除く走行時間は何時間か。」に対し、回答「2時間。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。
- ア. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。
- イ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。
- ウ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。
- エ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

答え・解説

- 正答：ウ
- ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
- イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
- ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。
- エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。
- 総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。タイヤと水膜の現象。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $150 \div 75 = 2$ 時間である。
- 2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-052 難易度2

- 次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。
- A.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「明るい場所から暗いトンネルへ入った直後、見えにくくなる現象への対処として適切なものはどれか。」に対し、回答「目は瞬時に完全適応するので速度を上げる。」とした。
- B.【速度・距離・時間の計算】設問「72km/hを秒速に換算すると、およそ何m/sか。」に対し、回答「36m/s。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。
- ア. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。
- イ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。
- ウ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。
- エ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

- 正答：エ
- ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
- イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
- ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
- エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。
- 総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。瞬時に完全適応しない。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。km/hの数値を半分にただけで換算式と合わない。
- 2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-053 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「夜間に対向車の強い前照灯で一時的に見えにくくなる現象に最も近いものはどれか。」に対し、回答「グレア（まぶしさ）である。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「240kmを平均60km/hで走行し、途中で30分休憩した。出発から到着までの経過時間は何時間か。」に対し、回答「5時間。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

ア. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

イ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

ウ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。強い光によるまぶしさは視認性を低下させる。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩を1時間としている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-054 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「夜間、対向車のライトと自車のライトが重なる付近で歩行者などが見えにくくなる現象として知られるものはどれか。」に対し、回答「スタンディングウェーブ現象である。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「210kmを平均70km/hで走行し、途中30分休憩する。8時00分に出発した場合の到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「11時00分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

ア. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

イ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

ウ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。タイヤの異常変形に係る用語。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩を加えていない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-055 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）】設問「速度が高くなると運転者の視野に起こりやすい変化として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「周辺視野が必ず広がる。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「前半100kmを平均50km/h、後半120kmを平均80km/hで走行した。休憩を除く合計走行時間はどれか。」に対し、回答「3時間30分。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

ア. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

イ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

ウ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. 視覚特性（明順応・蒸発現象・グレア等）の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。一般に狭くなる方向。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。前半2時間、後半1.5時間、合計3.5時間。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-056 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット情報を収集する主な目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「報告件数をゼロに見せるためである。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「300kmを実運転5時間で走行した。実運転時間だけを基にした平均速度はどれか。」に対し、回答「1500km/h。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

ア. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

イ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

ウ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

エ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り／速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。報告を促す文化が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。距離と時間を掛けている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-057 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ハインリッヒの法則を安全管理に活用する際の考え方として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「重大事故の背後には多数の軽微事故や不安全行動が存在し得るという考え方から、日常の危険兆候を改善する。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「90kmの区間を平均45km/hから60km/hへ変更した場合、計算上短縮される走行時間はどれか。」に対し、回答「1時間。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

A. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

イ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

ウ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。厳密な予言式ではなく、事故の裾野にある危険要因へ着目する考え方として使う。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。差は1時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-058 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット報告制度を機能させる方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「報告者を一律に減点する。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「360kmを平均80km/hで走り、途中15分休憩を2回取る。出発から到着までの所要時間はどれか。」に対し、回答「4時間45分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

A. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

イ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

ウ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

エ. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。報告抑制につながる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩を15分しか加えていない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-059 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「同じ交差点で複数の運転者から『左折時に自転車を見落としかけた』という報告があった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「報告した運転者だけの問題として終える。」とした。

B.【速度・距離・時間の計算】設問「距離270kmの運行を、実運転4時間30分で終えた。平均速度はどれか。」に対し、回答「60km/h。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

A. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

I. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は誤り。

U. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

E. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 速度・距離・時間の計算の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。共通要因の可能性を調べる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。4時間30分 = 4.5時間、 $270 \div 4.5 = 60\text{km/h}$ 。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-060 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ヒヤリハット・ハインリッヒの法則】設問「ヒヤリハット分析で最も避けるべき考え方はどれか。」に対し、回答「人的要因と環境要因を分けて検討すること。」とした。

B.【停止距離の計算】設問「速度54km/h (15m/s) で走行中、反応時間が0.8秒だった。計算上の空走距離は何mか。」に対し、回答「18.75m。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

A. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。

I. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。

U. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。

E. ヒヤリハット・ハインリッヒの法則の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤りではない。多面的分析は有効である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。15 ÷ 0.8で誤り。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-061 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドライブレコーダーの安全管理上の主な活用方法として適切なものはどれか。」に対し、回答「事故・ヒヤリハット時の映像を客観的に確認し、危険場面や確認行動を具体的に指導する。」とした。

B.【停止距離の計算】設問「60km/hを約16.7m/sとし、反応時間1.5秒、制動距離30mとする。停止距離はおおよそ何mか。」に対し、回答「約30m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

A. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。

I. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。

U. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。

E. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。映像に基づく具体的な振り返りは教育に有効である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。空走距離を含まない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-062 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「デジタルタコグラフから把握しやすい情報として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「道路の将来の事故を完全に予言する情報である。」とした。

B.【停止距離の計算】設問「72km/h (20m/s) で、通常時の反応時間0.8秒が疲労により1.2秒になったとする。空走距離は何m増えるか。」に対し、回答「24m。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

A. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。

I. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。

U. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。

E. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。未来を完全予測するものではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。疲労時の空走距離そのもの24mで、増加分ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-063 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドラレコとデジタコを組み合わせる利点として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故が起きてもデータ確認は不要となる。」とした。
- B.【停止距離の計算】設問「ある条件で空走距離18m、制動距離40mだった。停止距離は何mか。」に対し、回答「58m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。
- ア.ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。
- イ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。
- ウ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。
- エ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故分析にデータを活用する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $18 + 40 = 58\text{m}$ 。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-064 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「デジタコで急加速・急減速が多い運転者が見つかった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「データは機械なので必ず誤りとして無視する。」とした。
- B.【停止距離の計算】設問「停止距離70m、空走距離28mだった。制動距離は何mか。」に対し、回答「28m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。
- ア.ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。
- イ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。
- ウ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。
- エ.ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。客観データとして検証する価値がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。空走距離をそのまま答えている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-065 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【ドラレコ・デジタコの活用】設問「ドラレコ映像を社内教育に使う際の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「利用目的を明確にし、個人情報・プライバシーに配慮しながら必要な範囲で教材化する。」とした。
- B.【停止距離の計算】設問「90km/h (25m/s) で反応時間0.8秒、制動距離60mと仮定する。停止距離は何mか。」に対し、回答「60m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。
- A. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。
- イ. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。
- ウ. ドラレコ・デジタコの活用の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。
- エ. ドラレコ・デジタコの活用の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。安全教育と情報管理を両立させる必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。空走を加えていない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-066 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「運行管理者が適性診断の結果を日常の安全指導へ反映する方法として、最も適切なものはどれか。」に対し、回答「一度受診すればその後の指導は不要である。」とした。
- B.【停止距離の計算】設問「同じ速度・反応時間で空走距離15mとする。乾燥路面の制動距離30m、濡れた路面で45mだった場合、停止距離の差は何mか。」に対し、回答「45m。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。
- A. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は正しい。
- イ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は誤り。
- ウ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 停止距離の計算の回答は正しい。
- エ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 停止距離の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。継続的な指導が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。濡れた路面の制動距離そのもの。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-067 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「適性診断で『焦りやすい傾向』が示された運転者への指導として適切なものはどれか。」に対し、回答「性格は変わらないとして指導しない。」とした。
- B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「燃費6km/Lの車両で360km走行した。計算上の燃料消費量は何Lか。」に対し、回答「60L。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。
- ア. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- イ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- ウ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- エ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。行動の工夫でリスクを下げられる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $360 \div 6 = 60L$ 。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-068 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「一般的な指導及び監督を効果的に行う方法として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「適性診断結果と指導内容を関連付けない。」とした。
- B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「燃費6km/Lで、使用可能な燃料が180Lある。計算上走行できる距離は何kmか。」に対し、回答「360km。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。
- ア. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- イ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- ウ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- エ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。個別特性を活用する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。60km/Lと混同した値。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-069 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「指導後の効果確認として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「デジタコ・ドラレコ・点呼・ヒヤリハット等で行動変化を確認し、必要なら指導方法を見直す。」とした。
- B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「最初の200kmを5km/L、次の300kmを6km/Lで走った。合計燃料消費量は何Lか。」に対し、回答「80L。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。
- ア. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- イ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- ウ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- エ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。教育は実施だけでなく効果検証が必要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。前半を30Lと誤っている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-070 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【適性診断結果の活用・指導監督指針】設問「初任運転者等の特定運転者への指導について最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「初任者は免許があるため特別な教育は不要である。」とした。
- B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「500km走行して80L消費した。実績燃費は何km/Lか。」に対し、回答「8km/L。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。
- ア. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- イ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- ウ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は誤り / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- エ. 適性診断結果の活用・指導監督指針の回答は正しい / 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。初任者向けの指導が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。640km走行時相当。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-071 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「ハイドロブレーニング現象として正しいものはどれか。」に対し、回答「夜間に歩行者が見えにくくなる現象である。」とした。

B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「320kmを平均80km/hで走行し、途中45分休憩した。出発から到着までの所要時間はどれか。」に対し、回答「4時間45分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

ア.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

イ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

ウ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

エ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。視覚現象である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。走行4時間＋休憩45分＝4時間45分。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-072 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「長い下り坂でフットブレーキを多用し、摩擦材が過熱して制動力が低下する現象はどれか。」に対し、回答「明順応である。」とした。

B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「8時20分に出発し、走行2時間40分、休憩30分を要した。到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「11時00分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

ア.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

イ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

ウ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

エ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。視覚の適応現象。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。走行時間を2時間40分ではなく2時間10分としている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-073 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「ペーパーロック現象として正しいものはどれか。」に対し、回答「ブレーキ系統の液が過熱して気泡が生じ、ペダルを踏んでも油圧が十分伝わらず制動力が低下する現象である。」とした。

B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「予定では9時出発・3時間走行・30分休憩だったが、出発が40分遅れた。他の条件が同じなら到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「12時50分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

A.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

I.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

U.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

E.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。ブレーキ液の気泡化で油圧伝達が悪化する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。遅れを20分としている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-074 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「積雪路での発進・制動として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「カーブ内で強くブレーキを踏む。」とした。

B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「出発時に燃料70Lあり、運行で48L消費した。途中給油がなければ残量は何Lか。」に対し、回答「118L。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

A.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

I.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

U.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

E.雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。カーブ前に減速する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。加算している。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-075 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「凍結が特に起こりやすい場所として注意すべきものはどれか。」に対し、回答「屋内駐車場の停止中だけである。」とした。
- B.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「A経路は240kmで燃費6km/L、B経路は270kmで燃費7.5km/Lとする。燃料消費量が少ないのはどちらで、差は何Lか。」に対し、回答「B経路で、A経路より4L少ない。」とした。
- ア. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- イ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り。
- ウ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。
- エ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。走行路の局所凍結が問題。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。Aは $240 \div 6 = 40\text{L}$ 、Bは $270 \div 7.5 = 36\text{L}$ 。Bが4L少ない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-076 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）】設問「下り坂でブレーキ過熱を防ぐ運転として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「ニュートラルにして惰性走行する。」とした。
- B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「6時00分に始業し18時30分に終業した。途中の休憩も拘束時間を含むものとして、この日の拘束時間はどれか。」に対し、回答「12時間。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。
- ア. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- イ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- ウ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は正しい／拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- エ. 雨天・降雪・凍結（ハイドロ／フェード／ペーパーロック）の回答は誤り／拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。制御性が低下し危険。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。30分不足。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-077 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）】設問「雨天時に前車へ接近しやすくなるリスクを減らす対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「晴天時より速度を落とし、車間距離を長く取り、視界不良にも備える。」とした。
- B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「5時00分に始業し20時00分に終業した。通常のトラック運転者の1日最大拘束時間との関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「拘束時間は16時間で長距離特例が必要である。」とした。
- ア.雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい/拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- イ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り/拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- ウ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は正しい/拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- エ.雨天・降雪・凍結（ハイドロ/フェード/ペーパーロック）の回答は誤り/拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。視界と制動性能の両方が悪化する可能性がある。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。16時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-078 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「濃霧時の運転として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「前車の尾灯だけを頼りに接近して走る。」とした。
- B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「7時00分に始業し22時30分に終業した。長距離貨物運送等の特例に該当しない場合の評価はどれか。」に対し、回答「16時間以内なので通常勤務でも基準内である。」とした。
- ア.濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい/拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- イ.濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り/拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- ウ.濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り/拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- エ.濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい/拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。前車への接近は追突リスクを高める。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。16時間は限定的な長距離特例である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-079 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「強い横風を受けやすい場所で大型トラックが注意すべき点はどれか。」に対し、回答「トンネル出口では加速して風を抜ける。」とした。

B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「21時00分に勤務終了し、翌日8時00分に始業した。休息期間の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「11時間で、現行基準が基本とする休息期間を確保している。」とした。

A. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

イ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

ウ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

エ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。減速して備える。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。21時から翌8時は11時間。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-080 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「台風接近で暴風・大雨が予想されている場合の運行管理者の判断として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者が経験豊富なら気象情報は不要である。」とした。

B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「長距離貨物運送の特例要件を満たし、23時00分に勤務終了、翌7時00分に始業した。休息期間はどれか。」に対し、回答「12時間で回復休息も同時に満たす。」とした。

A. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

イ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

ウ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

エ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。客観的情報が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。実時間は12時間ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-081 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「道路が冠水しており水深が分からない場所へ進入しようとしている。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「安易に進入せず、迂回・待機等を選択し、道路管理者等の情報を確認する。」とした。

B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「各月の拘束時間が275時間で12か月続いた。年間総拘束時間は何時間か。」に対し、回答「3400時間。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

ア. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

イ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

ウ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

エ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。冠水路は路面状況や水深が見えず危険である。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。例外年間上限の数値と混同。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-082 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【濃霧・強風・異常気象時の措置】設問「大雪で立ち往生の可能性が高い場合の事前対策として適切なものはどれか。」に対し、回答「情報収集せず予定時刻だけで出発する。」とした。

B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「例外運用の年に、6か月が各300時間、残り6か月が各260時間だった。年間総拘束時間は何時間か。」に対し、回答「3300時間。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

ア. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

イ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

ウ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

エ. 濃霧・強風・異常気象時の措置の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。情報収集が重要。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。原則上限の数値をそのまま選んでいる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-083 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「KYT（危険予知トレーニング）の目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「危険を全て機械任せにし、運転者の予測力を不要にする。」とした。
- B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「6時始業、20時終業、翌6時始業という勤務だった。拘束時間と休息期間の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「拘束14時間・休息10時間。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。
- ア. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- イ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- ウ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- エ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。人の危険予測力を高める訓練である。Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。6時から20時は14時間、20時から翌6時は10時間。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-084 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「荷主先で待たされ、出発が予定より2時間遅れた運転者が焦っている。ヒューマンエラー対策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「遅れを取り戻すため休憩を省略させる。」とした。
- B.【拘束時間・休息期間の計算】設問「8時始業、23時終業の勤務後、翌8時に再び始業した。通常勤務として最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「拘束15時間なら休息時間は確認不要である。」とした。
- ア. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- イ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい。
- ウ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。
- エ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。休憩省略はリスクを高める。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。拘束時間を満たしても休息基準を別途確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-085 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「同じ運転者が右左折時の確認漏れを繰り返している。原因分析として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「本人の注意不足だけで終えず、ミラー位置、運行経路、時間的余裕、疲労、確認手順など複数要因を確認する。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「2時間運転後15分中断し、さらに2時間運転後15分中断した。連続運転時間の基準上の評価として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「中断は必ず1時間必要である。」とした。

ア. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

イ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

ウ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

エ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。再発するエラーは人・設備・環境・手順を多面的に分析する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1時間という基準ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-086 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【KYT・ヒューマンエラーの要因分析】設問「KYTで『住宅街の見通しの悪い交差点を左折する』場面を扱う場合、最も良い行動目標はどれか。」に対し、回答「左ミラーを1回見ればその後は確認しない。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「1時間30分運転→10分中断→1時間30分運転→10分中断→1時間運転→10分中断、という運行だった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「10分中断は短すぎて一切算入できない。」とした。

ア. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

イ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

ウ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

エ. KYT・ヒューマンエラーの要因分析の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。状況は変化するため継続確認が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。おおむね10分以上は算入できる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-087 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「180kmの区間を3時間で走行した。平均速度は何km/hか。」に対し、回答「45km/h。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「1時間運転するごとに8分の中断を3回連続して取り、その後さらに1時間運転した。最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「10分未満の中断が3回以上連続しており、『おおむね10分以上』の考え方を満たさない。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

I. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

U. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

E. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。180÷4に相当し条件と合わない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。公式整理では10分未満の中断が3回以上連続しないこと等を『おおむね10分以上』としている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-088 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「150kmを平均75km/hで走行する場合、休憩を除く走行時間は何時間か。」に対し、回答「3時間。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「SAが満車で安全に駐停車できず、やむを得ず4時間25分まで連続運転した。現行基準に照らした説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「満車でなくても毎回4時間30分を標準にできる。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

I. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

U. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

E. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。50km/hで走る場合の時間に相当する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。常態化できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-089 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「72km/hを秒速に換算すると、およそ何m/sか。」に対し、回答「20m/s。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「3時間45分運転した後、30分の運転中断を確保した。最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「30分中断後は9時間連続で運転できる。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $72 \div 3.6 = 20\text{m/s}$ である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。4時間基準は継続する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-090 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「240kmを平均60km/hで走行し、途中で30分休憩した。出発から到着までの経過時間は何時間か。」に対し、回答「3時間30分。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「4時間5分連続運転したが、駐停車できない事情はなく『納品先が近かった』ことだけが理由だった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「荷主が急いでいれば基準は適用されない。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。走行時間の計算が不足。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。荷主要請で基準は消えない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-091 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「210kmを平均70km/hで走行し、途中30分休憩する。8時00分に出発した場合の到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「12時00分。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

B.【連続運転時間の判定】設問「4時間30分の延長特例を使った後の運行管理として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「駐停車可能となった時点で必要な運転中断を確保し、特例を繰り返し通常運用にしない。」とした。

ア. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は誤り。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 連続運転時間の判定の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。余分に30分加えている。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。特例は一時的事情への対応で、その後の中断と通常管理が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-092 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「前半100kmを平均50km/h、後半120kmを平均80km/hで走行した。休憩を除く合計走行時間はどれか。」に対し、回答「3時間。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【事故発生時の対応】設問「配送中に歩行者との接触事故が発生し、歩行者が負傷している。運転者が最初に優先すべき対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「相手が軽傷に見えればそのまま走行を続ける。」とした。

ア. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は正しい。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は正しい。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は誤り。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。後半を1時間と誤っている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。自己判断で現場を離れてはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-093 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「300kmを実運転5時間で走行した。実運転時間だけを基にした平均速度はどれか。」に対し、回答「60km/h。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【事故発生時の対応】設問「高速道路で追突事故を起こし、車両が走行車線に停止した。負傷者はいないが後続車による二次事故のおそれが高い。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「交通の妨げになるので警察へ報告せず走り去る。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は誤り。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は正しい。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $300 \div 5 = 60\text{km/h}$ 。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。報告を省略できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-094 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「90kmの区間を平均45km/hから60km/hへ変更した場合、計算上短縮される走行時間はどれか。」に対し、回答「45分。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【事故発生時の対応】設問「事故発生時の連絡を受けた運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運転者に全て任せ、会社として記録を残さない。」とした。

A. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は正しい。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は誤り。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。差は0.75時間ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事業者としての事故管理が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-095 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「360kmを平均80km/hで走り、途中15分休憩を2回取る。出発から到着までの所要時間はどれか。」に対し、回答「4時間30分。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【事故発生時の対応】設問「事故後、運転者から『相手と話し合いがついたので警察には連絡していない』との報告があった。運行管理者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「当事者間の合意だけで警察への報告義務はなくなることを伝え、速やかに適切な報告を行わせる。」とした。

ア. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は誤り。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は誤り。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は正しい。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩を含めていない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。事故当事者間の合意と警察報告義務は別である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-096 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【速度・距離・時間の計算】設問「距離270kmの運行を、実運転4時間30分で終えた。平均速度はどれか。」に対し、回答「75km/h。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【事故発生時の対応】設問「事故処理が終わった後の事業者の再発防止策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故情報を他の安全教育に一切利用しない。」とした。

ア. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は正しい。

イ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は正しい。

ウ. 速度・距離・時間の計算の回答は正しい / 事故発生時の対応の回答は誤り。

エ. 速度・距離・時間の計算の回答は誤り / 事故発生時の対応の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。条件より高い。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。匿名化等に配慮しつつ教育に活用できる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-097 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離の計算】設問「速度54km/h (15m/s) で走行中、反応時間が0.8秒だった。計算上の空走距離は何mか。」に対し、回答「12m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【点呼における判断】設問「業務前点呼でアルコール検知器が反応した。運転者は『前夜の酒が少し残っただけで体調は良い』と説明している。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「水を飲ませてすぐ再出発させる。」とした。

ア. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。

イ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。

ウ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。

エ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $15 \times 0.8 = 12\text{m}$ 。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。短時間で確実にアルコールが消えるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-098 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離の計算】設問「60km/hを約16.7m/sとし、反応時間1.5秒、制動距離30mとする。停止距離はおおよそ何mか。」に対し、回答「約30m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【点呼における判断】設問「業務前点呼で日常点検の結果、制動装置に異常のおそれがあるとの報告を受けた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「短距離運行なら異常を無視する。」とした。

ア. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。

イ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。

ウ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。

エ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。空走距離を含まない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。距離に関係なく安全性が必要。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-099 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離の計算】設問「72km/h(20m/s)で、通常時の反応時間0.8秒が疲労により1.2秒になったとする。空走距離は何m増えるか。」に対し、回答「24m。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【点呼における判断】設問「遠隔地で業務を開始する運転者の酒気帯び確認について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「携帯型アルコール検知器等を用い、法令・制度に沿った方法で業務前点呼を行う。」とした。

A. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。

イ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。

ウ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。

エ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。疲労時の空走距離そのもの24mで、増加分ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。遠隔地でも酒気帯び確認を含む点呼を適切に行う必要がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-100 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離の計算】設問「ある条件で空走距離18m、制動距離40mだった。停止距離は何mか。」に対し、回答「22m。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【点呼における判断】設問「業務後点呼で運転者から『帰路で路面凍結が始まり、橋の上が特に滑りやすかった』との報告があった。運行管理者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「その運転者の感想として記録せず捨てる。」とした。

A. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。

イ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。

ウ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。

エ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。40 + 18で誤り。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。重要な現場情報である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-101 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【停止距離の計算】設問「停止距離70m、空走距離28mだった。制動距離は何mか。」に対し、回答「42m。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。
- B.【点呼における判断】設問「業務の開始前と終了後の点呼をともに対面で行えない長距離運行となる。最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「開始前後の点呼ができないなら途中の確認も一切不要である。」とした。
- ア. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。
- イ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。
- ウ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。
- エ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。
イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $70 - 28 = 42$ m。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。むしろ途中管理が重要。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-102 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【停止距離の計算】設問「90km/h (25m/s) で反応時間0.8秒、制動距離60mと仮定する。停止距離は何mか。」に対し、回答「70m。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。
- B.【点呼における判断】設問「点呼で運転者の顔色が悪く、受け答えも普段と異なるが、本人は『大丈夫』と答えた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「運転中に悪化したら本人に任せる。」とした。
- ア. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は正しい。
- イ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は誤り。
- ウ. 停止距離の計算の回答は誤り / 点呼における判断の回答は正しい。
- エ. 停止距離の計算の回答は正しい / 点呼における判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。
ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。
総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。空走を10mとしている。
Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。出発前に安全性を判断する。
2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-103 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【停止距離の計算】設問「同じ速度・反応時間で空走距離15mとする。乾燥路面の制動距離30m、濡れた路面で45mだった場合、停止距離の差は何mか。」に対し、回答「0m。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【運行指示書の作成・変更】設問「長距離運行で、業務の開始前と終了後の点呼をともに対面で行えないため、運行指示書が必要となる運行を計画している。出発前の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「必要事項を記載した運行指示書を作成して運転者に指示・携行させ、営業所には写しを備える。」とした。

A. 停止距離の計算の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

イ. 停止距離の計算の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

ウ. 停止距離の計算の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

エ. 停止距離の計算の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。制動距離が変わっているので差は0ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。対象運行では運行指示書による確実な指示・携行と営業所側の写しが必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-104 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「燃費6km/Lの車両で360km走行した。計算上の燃料消費量は何Lか。」に対し、回答「54L。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【運行指示書の作成・変更】設問「運行途中、荷主都合で目的地と運行経路が変更になった。運行指示書の対象運行である場合、事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「電話で伝えるだけで、双方の書類は変更しない。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

イ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

ウ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

エ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。360÷6.67相当。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。書類にも変更内容を記載する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-105 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「燃費6km/Lで、使用可能な燃料が180Lある。計算上走行できる距離は何kmか。」に対し、回答「1080km。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【運行指示書の作成・変更】設問「当初は運行指示書が不要な運行だったが、運行途中の変更により中間点呼等を要する長期運行となった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「出発時に不要だったので最後まで運行指示書関係の対応は不要である。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

イ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

ウ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

エ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。 $180 \times 6 = 1080\text{km}$ 。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。途中変更に対応する規定がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-106 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「最初の200kmを5km/L、次の300kmを6km/Lで走った。合計燃料消費量は何Lか。」に対し、回答「50L。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【運行指示書の作成・変更】設問「運行指示書とその写しの保存について正しいものはどれか。」に対し、回答「5年間保存しなければならない。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

イ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

ウ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

エ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。後半分だけ。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。1年である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-107 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「500km走行して80L消費した。実績燃費は何km/Lか。」に対し、回答「6km/L。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【運行指示書の作成・変更】設問「運行指示書の内容を作成する際の基本姿勢として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行経路、日時、注意箇所、休憩・休息等、安全な運行に必要な事項を実際の運行計画に即して具体的に示す。」とした。

ア. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

イ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は誤り。

ウ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

エ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 運行指示書の作成・変更の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。丸めすぎで正確な値ではない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。運行指示書は安全な運行を具体的に支える内容でなければならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-108 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「320kmを平均80km/hで走行し、途中45分休憩した。出発から到着までの所要時間はどれか。」に対し、回答「4時間。距離・時間などの単位をそろえて計算することが前提となる。」とした。

B.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転者の前月拘束時間が長く、ここ数日も睡眠不足が続き、点呼で強い疲労を訴えている。最も適切な運行管理者の判断はどれか。」に対し、回答「月上限を1分でも下回っていれば必ず乗務させる。」とした。

ア. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

イ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

ウ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

エ. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。休憩を含めていない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。個人の体調を確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-109 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「8時20分に出発し、走行2時間40分、休憩30分を要した。到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「11時30分。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転中に胸部圧迫感と冷汗が出たとの連絡を受けた。最も適切な指示はどれか。」に対し、回答「納品先が近ければそのまま運転させる。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

I. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

U. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

E. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。2時間40分 + 30分 = 3時間10分、8時20分 + 3時間10分 = 11時30分。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。重大な健康起因事故につながるおそれがある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-110 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「予定では9時出発・3時間走行・30分休憩だったが、出発が40分遅れた。他の条件が同じなら到着予定時刻はどれか。」に対し、回答「12時50分。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転者が一時的に意識を失うような症状を経験したが、現在は回復している。次回乗務への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「症状の原因は私生活なので事業者は確認しない。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

I. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

U. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい。

E. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。遅れを20分としている。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。就業上必要な範囲で確認・措置する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-111 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「出発時に燃料70Lあり、運行で48L消費した。途中給油がなければ残量は何Lか。」に対し、回答「118L。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

B.【悪天候時の運行可否判断】設問「出発前、経路上に大雪警報が出ており、高速道路も予防的通行止めの可能性が高い。運行管理者の最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「気象・道路情報を確認し、経路変更、出発延期、運行中止を含め安全側に判断する。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

I. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

U. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

E. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。加算している。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。異常気象時は客観情報を基に無理な運行を避ける。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-112 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【燃料消費率・走行時間・到着時刻】設問「A経路は240kmで燃費6km/L、B経路は270kmで燃費7.5km/Lとする。燃料消費量が少ないのはどちらで、差は何Lか。」に対し、回答「A経路で、B経路より10L少ない。」とした。

B.【悪天候時の運行可否判断】設問「運行中の運転者から『濃霧で視界が極端に悪く、前方がほとんど見えない』と連絡があった。最も適切な指示はどれか。」に対し、回答「納品時刻に間に合わせるため速度を上げるよう指示する。」とした。

A. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

I. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

U. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

E. 燃料消費率・走行時間・到着時刻の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。差は10Lではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。視界不良時の高速走行は危険。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-113 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「6時00分に始業し18時30分に終業した。途中の休憩も拘束時間を含むものとして、この日の拘束時間はどれか。」に対し、回答「12時間30分。分や秒を扱う場合は、必要に応じて時間又は秒へ換算して比較する。」とした。

B.【悪天候時の運行可否判断】設問「強風注意報下で空荷の大型箱型トラックを橋梁区間へ向かわせる予定である。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「空荷なら重量が軽いので横風の影響は必ず小さくなる。」とした。

A. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

I. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

U. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい。

E. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。6時から18時30分まで12時間30分。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。軽い車体は横風影響が大きくなることがある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-114 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「5時00分に始業し20時00分に終業した。通常のトラック運転者の1日最大拘束時間との関係として正しいものはどれか。」に対し、回答「拘束時間は20時間で2人乗務特例が必要である。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者と事業者の関係について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「運行管理者に権限を与えず、責任だけ負わせればよい。」とした。

A. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

I. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

U. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

E. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。20時間ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。権限を伴わない責任付与では実効的な管理ができない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-115 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「7時00分に始業し22時30分に終業した。長距離貨物運送等の特例に該当しない場合の評価はどれか。」に対し、回答「14時間30分なので基準内である。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「補助者が点呼を行った際、運転者の体調不良など通常と異なる事態を確認した。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「補助者は直ちに運行管理者へ報告し、運行の可否等について指示を受ける。」とした。

ア. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

イ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

ウ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

エ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1時間短く計算している。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。補助者は運行管理者の指揮命令下で業務を行い、異常時は報告・指示を受ける。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-116 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「21時00分に勤務終了し、翌日8時00分に始業した。休息期間の評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「9時間で最低基準だけを満たす。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が運転者の乗務可否を判断する際の基本姿勢として適切なものはどれか。」に対し、回答「売上目標を達成するため安全上の懸念を記録しない。」とした。

ア. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

イ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

ウ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

エ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り／権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。時間計算が誤り。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。懸念事項は適切に記録・対応する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-117 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「長距離貨物運送の特例要件を満たし、23時00分に勤務終了、翌7時00分に始業した。休息期間はどれか。」に対し、回答「8時間で、週2回までの長距離特例なら適用可能な下限である。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が事業者に安全上必要な設備改善を提案したが、費用を理由に先送りされている。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「運行管理者の職務外なので事故が起きるまで放置する。」とした。

A. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

I. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

U. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

E. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。23時から7時は8時間。長距離特例の下限8時間に一致する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故予防が職務上重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-118 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「各月の拘束時間が275時間で12か月続いた。年間総拘束時間は何時間か。」に対し、回答「3000時間。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「点呼結果、運行記録、事故・ヒヤリハット情報を運行管理者が活用する目的として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「書類を保存すること自体が目的で、内容分析は不要である。」とした。

A. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

I. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

U. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

E. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。250×12の値。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。記録は分析・改善に活用する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-119 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「例外運用の年に、6か月が各300時間、残り6か月が各260時間だった。年間総拘束時間は何時間か。」に対し、回答「3600時間。求める量に応じて、距離・速度・時間又は構成要素の関係を確認する。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者が補助者へ業務を任せる場合の考え方として適切なものはどれか。」に対し、回答「補助者が行える業務範囲を明確にし、必要な教育・指示・報告体制を整える。」とした。

ア. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

イ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

ウ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

エ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。300×12と誤っている。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。役割・教育・報告体制の明確化が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-120 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「6時始業、20時終業、翌6時始業という勤務だった。拘束時間と休息期間の組合せとして正しいものはどれか。」に対し、回答「拘束15時間・休息9時間。休憩・待機などを含むかは設問で与えられた条件に従って判定する。」とした。

B.【権限・責任、事業者との関係、補助者】設問「運行管理者の安全上の判断を事業者が営業上の理由で変更しようとしている。最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「事故が起きなければ安全判断の根拠は不要である。」とした。

ア. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

イ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は正しい。

ウ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

エ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 権限・責任、事業者との関係、補助者の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。各時間の計算が異なる。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事故前の予防管理が重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-121 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【拘束時間・休息期間の計算】設問「8時始業、23時終業の勤務後、翌8時に再び始業した。通常勤務として最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「拘束15時間で最大上限内、休息9時間で最低基準は満たすが、11時間以上を基本とする休息には届かない。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「常時使用する労働者を新たに雇い入れる場合の健康診断として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者本人が健康だと言えば省略できる。」とした。

ア. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

イ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

ウ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

エ. 拘束時間・休息期間の計算の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。8時から23時は15時間、23時から翌8時は9時間。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。本人申告のみで代替できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-122 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「2時間運転後15分中断し、さらに2時間運転後15分中断した。連続運転時間の基準上の評価として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「中断は必ず1時間必要である。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「常時使用する労働者に対する定期健康診断の実施頻度として正しいものはどれか。」に対し、回答「3年以内ごとに1回でよい。」とした。

ア. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。1時間という基準ではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。3年では間隔が長すぎる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-123 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「1時間30分運転→10分中断→1時間30分運転→10分中断→1時間運転→10分中断、という運行だった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「10分中断は短すぎて一切算入できない。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「深夜業を含む特定業務に常時従事する労働者の健康診断として正しいものはどれか。」に対し、回答「配置替えの際及び6か月以内ごとに1回、定期に実施する。」とした。

A. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

I. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

U. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

E. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。おおむね10分以上は算入できる。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。深夜業を含む特定業務従事者は6か月以内ごとに1回の健康診断が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-124 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「1時間運転するごとに8分の中断を3回連続して取り、その後さらに1時間運転した。最も適切な評価はどれか。」に対し、回答「4時間以内なら中断は不要である。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「健康診断個人票の保存期間として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者が退職すれば即日廃棄しなければならない。」とした。

A. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

I. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

U. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

E. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。4時間以内ごとに必要な中断を確保する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。退職しただけで即廃棄する制度ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-125 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「SAが満車で安全に駐停車でず、やむを得ず4時間25分まで連続運転した。現行基準に照らした説明として正しいものはどれか。」に対し、回答「やむを得ない駐停車困難の事情があれば、30分まで延長できる特例の範囲内である。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「健康診断で要再検査・要精密検査の所見があった運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「再検査は本人の私生活なので事業者は一切関与しない。」とした。

ア. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。4時間から30分までの限定延長に収まっている。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全運行に関わる範囲で健康管理が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-126 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「3時間45分運転した後、30分の運転中断を確保した。最も適切な説明はどれか。」に対し、回答「4時間に達していないので30分中断は無効である。」とした。

B.【健康診断（雇入時・定期・深夜業）】設問「深夜運行が多い運転者について、健康診断管理で最も適切なものはどれか。」に対し、回答「年1回の健康診断さえ受ければ深夜業の頻度は確認不要である。」とした。

ア. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / 健康診断（雇入時・定期・深夜業）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。早めの中断も有効。Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。深夜業常時従事者には別の頻度基準がある。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-127 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「4時間5分連続運転したが、駐停車できない事情はなく『納品先が近かった』ことだけが理由だった。評価として正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者が疲れていなければ5時間までよい。」とした。

B.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「睡眠時無呼吸症候群（SAS）が事業用自動車の安全運転上問題となる主な理由はどれか。」に対し、回答「夜間の睡眠の質が低下し、日中の強い眠気や注意力低下を招くことがあるためである。」とした。

ア. 連続運転時間の判定の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

イ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

ウ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

エ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。疲労の主観だけで上限は変わらない。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。SASは眠気・注意力低下を通じて事故リスクに関わる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-128 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【連続運転時間の判定】設問「4時間30分の延長特例を使った後の運行管理として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「特例を1回使えばその日の連続運転基準は消える。」とした。

B.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SAS対策として事業者が行う取組で最も適切なものはどれか。」に対し、回答「検査で疑いがあっても受診を勧めない。」とした。

ア. 連続運転時間の判定の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

イ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

ウ. 連続運転時間の判定の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

エ. 連続運転時間の判定の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。基準は継続する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。精密検査・治療につなげる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-129 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故発生時の対応】設問「配送中に歩行者との接触事故が発生し、歩行者が負傷している。運転者が最初に優先すべき対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「直ちに停止し、負傷者の救護と二次事故防止のための必要な措置を行い、警察へ報告する。」とした。

B.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SASの治療を受けている運転者への対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「治療機器の使用状況は安全管理と無関係なので確認しない。」とした。

ア. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

イ. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

ウ. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

エ. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。交通事故時は救護・危険防止・警察への報告が優先される。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。治療継続の確認は重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-130 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故発生時の対応】設問「高速道路で追突事故を起こし、車両が走行車線に停止した。負傷者はいないが後続車による二次事故のおそれが高い。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「事故車の写真撮影を最優先し、危険防止措置を後回しにする。」とした。

B.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「点呼時に運転者が『昨夜ほとんど眠れず、強い眠気がある』と訴えた。SASの有無が未診断の場合でも最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「SASと診断されていないので必ず乗務させる。」とした。

ア. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

イ. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

ウ. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

エ. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全確保が優先。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。強い眠気は安全上重要な情報である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-131 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【事故発生時の対応】設問「事故発生の連絡を受けた運行管理者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「事故現場の状況を確認せず、納品継続だけを指示する。」とした。
- B.【SAS（睡眠時無呼吸症候群）】設問「SAS対策におけるスクリーニング検査の位置付けとして正しいものはどれか。」に対し、回答「疑いのある運転者を抽出して精密検査・診断につなげるための手段であり、スクリーニングだけで確定診断とはしない。」とした。
- A. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。
- I. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は誤り。
- U. 事故発生時の対応の回答は誤り / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。
- E. 事故発生時の対応の回答は正しい / SAS（睡眠時無呼吸症候群）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全状況の把握が先である。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。スクリーニングは確定診断の前段階である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-132 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

- A.【事故発生時の対応】設問「事故後、運転者から『相手と話し合いがついたので警察には連絡していない』との報告があった。運行管理者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「会社に報告済みなら警察への報告を省略できる。」とした。
- B.【脳・心臓疾患の予防】設問「脳・心臓疾患のリスク管理で特に重要な生活習慣上の要素として適切なものはどれか。」に対し、回答「睡眠時間を削って運動時間を増やすのが最優先である。」とした。
- A. 事故発生時の対応の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。
- I. 事故発生時の対応の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。
- U. 事故発生時の対応の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。
- E. 事故発生時の対応の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。社内報告と警察報告は別。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。十分な睡眠も重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-133 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【事故発生時の対応】設問「事故処理が終わった後の事業者の再発防止策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「ドラレコ、運行記録、点呼記録、道路状況、勤務状況等を分析し、原因に応じた指導・運行計画・設備面の対策を行う。」とした。

B.【脳・心臓疾患の予防】設問「運転中に突然、片側の手足の力が入りにくい、ろれつが回らない等の症状が現れた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「本人に運転を継続させながら様子を見る。」とした。

A. 事故発生時の対応の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

I. 事故発生時の対応の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

U. 事故発生時の対応の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

E. 事故発生時の対応の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。人的・車両・環境・管理面を多面的に分析することが再発防止に重要である。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全な停止と救急対応を優先する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-134 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「業務前点呼でアルコール検知器が反応した。運転者は『前夜の酒が少し残っただけで体調は良い』と説明している。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「水を飲ませてすぐ再出発させる。」とした。

B.【脳・心臓疾患の予防】設問「運転者が胸部圧迫感、冷汗、息苦しさを訴えている。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「若年者なら心疾患ではないと判断する。」とした。

A. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

I. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

U. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

E. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。短時間で確実にアルコールが消えるわけではない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。年齢だけで除外できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-135 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「業務前点呼で日常点検の結果、制動装置に異常のおそれがあるとの報告を受けた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「短距離運行なら異常を無視する。」とした。

B.【脳・心臓疾患の予防】設問「健康診断で血圧・血糖・脂質に複数の異常所見がある運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「医療機関受診・保健指導を促し、必要に応じ医師の意見を踏まえて勤務や運行を調整する。」とした。

A. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

I. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

U. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

E. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。距離に関係なく安全性が必要。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。複数のリスク因子が重なる場合は特にフォローが重要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-136 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「遠隔地で業務を開始する運転者の酒気帯び確認について最も適切なものはどれか。」に対し、回答「遠隔地なら酒気帯び確認を省略する。」とした。

B.【脳・心臓疾患の予防】設問「長時間労働が続く運転者の脳・心臓疾患予防として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「体調不良の申告を評価上の不利益にする。」とした。

A. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

I. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は正しい。

U. 点呼における判断の回答は正しい / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

E. 点呼における判断の回答は誤り / 脳・心臓疾患の予防の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。遠隔地は省略理由にならない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。申告しやすい環境が事故予防につながる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-137 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「業務後点呼で運転者から『帰路で路面凍結が始まり、橋の上が特に滑りやすかった』との報告があった。運行管理者の最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「報告を記録し、後続運行の運転者へ道路・気象情報として共有し、必要なら経路変更等を検討する。」とした。

B.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「事業用自動車運転者の飲酒運転防止策として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「依存症の疑いは本人の問題なので事業者は一切関与しない。」とした。

ア.点呼における判断の回答は正しい／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

イ.点呼における判断の回答は誤り／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

ウ.点呼における判断の回答は正しい／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

エ.点呼における判断の回答は誤り／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。業務後点呼で得た運行上の異常・道路情報を次の安全運行へ反映する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全運行に関わるため適切な支援が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-138 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「業務の開始前と終了後の点呼をともに対面で行えない長距離運行となる。最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「運転者がベテランなら運行指示書は不要である。」とした。

B.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「営業所におけるアルコール検知器の備付けについて正しいものはどれか。」に対し、回答「運転者が自己申告すれば検知器は不要である。」とした。

ア.点呼における判断の回答は正しい／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

イ.点呼における判断の回答は誤り／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

ウ.点呼における判断の回答は誤り／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

エ.点呼における判断の回答は正しい／アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。経験で法定管理を省略できない。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。自己申告だけで代替できない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-139 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【点呼における判断】設問「点呼で運転者の顔色が悪く、受け答えも普段と異なるが、本人は『大丈夫』と答えた。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「本人が大丈夫と言えば必ず乗務させる。」とした。

B.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「遠隔地で乗務を開始・終了する運転者の酒気帯び確認として適切なものはどれか。」に対し、回答「携帯型アルコール検知器を携帯させ、所定の方法で確認する。」とした。

A. 点呼における判断の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

イ. 点呼における判断の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

ウ. 点呼における判断の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

エ. 点呼における判断の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。点呼執行者自身の観察も重要。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。遠隔地でもアルコール検知器を活用して確認する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-140 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書の作成・変更】設問「長距離運行で、業務の開始前と終了後の点呼をともに対面で行えないため、運行指示書が必要となる運行を計画している。出発前の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「営業所に原本を置き、運転者には何も持たせない。」とした。

B.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「アルコール依存症が疑われる運転者への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「点呼時に陰性なら飲酒問題への支援は一切不要である。」とした。

A. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

イ. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

ウ. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

エ. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。運転者が携行する必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。飲酒習慣の問題は長期的安全管理に関わる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-141 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書の作成・変更】設問「運行途中、荷主都合で目的地と運行経路が変更になった。運行指示書の対象運行である場合、事業者の対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「営業所の写しに変更内容を記載し、電話等で運転者へ適切に指示し、運転者側の運行指示書にも変更内容を記載させる。」とした。

B.【アルコール依存・飲酒運転防止】設問「翌朝早い乗務がある運転者への飲酒指導として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「サウナに入れば検知されなくなる。」とした。

A. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

I. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

U. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は正しい。

E. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / アルコール依存・飲酒運転防止の回答は誤り。

答え・解説

正答：A

A：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

I：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。変更内容を事業者・運転者双方の記録に反映し、指示を確実に伝える。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。発汗で確実に除去できるものではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-142 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書の作成・変更】設問「当初は運行指示書が不要な運行だったが、運行途中の変更により中間点呼等を要する長期運行となった。最も適切な対応はどれか。」に対し、回答「帰庫後に初めて運行計画を考える。」とした。

B.【ストレスチェック】設問「2026年8月時点のストレスチェック制度について正しいものはどれか。」に対し、回答「100人以上の事業場だけが義務対象である。」とした。

A. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / ストレスチェックの回答は正しい。

I. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / ストレスチェックの回答は誤り。

U. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り / ストレスチェックの回答は正しい。

E. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい / ストレスチェックの回答は誤り。

答え・解説

正答：I

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。変更時点で安全な運行計画を示す必要がある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。基準は100人ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-143 難易度1

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書の作成・変更】設問「運行指示書とその写しの保存について正しいものはどれか。」に対し、回答「1か月だけ保存する。」とした。

B.【ストレスチェック】設問「高ストレス者として選定された労働者が医師による面接指導を申し出た場合の対応として適切なものはどれか。」に対し、回答「法定要件に基づき面接指導を実施し、医師の意見を踏まえて必要な就業上の措置を検討する。」とした。

A. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り／ストレスチェックの回答は誤り。

I. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい／ストレスチェックの回答は誤り。

U. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り／ストレスチェックの回答は正しい。

E. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい／ストレスチェックの回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

U：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

E：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。1か月では短い。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。高ストレス者への医師面接と必要な事後措置が制度に組み込まれている。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-144 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【運行指示書の作成・変更】設問「運行指示書の内容を作成する際の基本姿勢として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「納期だけ記載し、安全上の注意事項は不要である。」とした。

B.【ストレスチェック】設問「ストレスチェック結果の取扱いとして最も適切なものはどれか。」に対し、回答「個人結果は掲示板に掲示する。」とした。

A. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り／ストレスチェックの回答は正しい。

I. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい／ストレスチェックの回答は正しい。

U. 運行指示書の作成・変更の回答は正しい／ストレスチェックの回答は誤り。

E. 運行指示書の作成・変更の回答は誤り／ストレスチェックの回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

I：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

U：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

E：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全確保に必要な情報を含める。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。個人情報を公開してはならない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-145 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転者の前月拘束時間が長く、ここ数日も睡眠不足が続き、点呼で強い疲労を訴えている。最も適切な運行管理者の判断はどれか。」に対し、回答「改善基準告示の数値だけでなく現時点の疲労状態も重視し、乗務見合わせや交替等を検討する。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「停止距離の構成として正しいものはどれか。」に対し、回答「車間距離から車長を引いた距離をいう。」とした。

ア. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

イ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

ウ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

エ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。法定・告示上限は安全を保証する個人別の絶対値ではなく、実際の健康状態も判断する。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。車間距離の定義ではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-146 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転中に胸部圧迫感と冷汗が出たとの連絡を受けた。最も適切な指示はどれか。」に対し、回答「納品先が近ければそのまま運転させる。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「速度が高くなると停止距離が長くなる主な理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「高速になるほどタイヤと路面の摩擦が無限に増えるためである。」とした。

ア. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

イ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

ウ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

エ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。重大な健康起因事故につながるおそれがある。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。摩擦は無限に増えない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-147 難易度2

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【過労運転・健康起因事故の判断】設問「運転者が一時的に意識を失うような症状を経験したが、現在は回復している。次回乗務への対応として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「症状の原因は私生活なので事業者は確認しない。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「同じ反応時間なら、空走距離に最も直接影響するものはどれか。」に対し、回答「走行速度である。」とした。

A. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

イ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

ウ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

エ. 過労運転・健康起因事故の判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

答え・解説

正答：ウ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

ウ：正しい。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せと一致する。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=正で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。就業上必要な範囲で確認・措置する。

Bは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。反応時間が同じなら速度が高いほど空走距離は長くなる。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-148 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【悪天候時の運行可否判断】設問「出発前、経路上に大雪警報が出ており、高速道路も予防的通行止めの可能性が高い。運行管理者の最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「納期があるため情報を確認せず出発させる。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「運転者の疲労が強い場合、停止距離にどのような影響が考えられるか。」に対し、回答「疲労と停止距離は無関係である。」とした。

A. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

イ. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

ウ. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

エ. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：エ

A：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。事前情報の確認が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。安全運転能力に関係する。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-149 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【悪天候時の運行可否判断】設問「運行中の運転者から『濃霧で視界が極端に悪く、前方がほとんど見えない』と連絡があった。最も適切な指示はどれか。」に対し、回答「無理に走行を続けさせず、安全な場所への退避・待機を指示し、視界や道路状況の改善を確認する。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「雨天時に乾燥路面と同じ速度・車間距離で走ることが危険な理由として最も適切なものはどれか。」に対し、回答「雨天ではブレーキを使わないので停止距離は関係ない。」とした。

ア. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

イ. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

ウ. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

エ. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：ア

ア：正しい。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せと一致する。

イ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

ウ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=正、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは正しい。選んだ回答は正答肢である。正しい。停止できる視距離を確保できない状況では無理な運行を避ける。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。停止時には制動が必要である。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。

UK05-PDF-150 難易度3

次の回答A・Bの正誤の組合せとして正しいものはどれか。

A.【悪天候時の運行可否判断】設問「強風注意報下で空荷の大型箱型トラックを橋梁区間へ向かわせる予定である。最も適切な判断はどれか。」に対し、回答「箱型車は風を受けないため通常速度でよい。」とした。

B.【停止距離（空走＋制動）】設問「重い荷物を積んだトラックの停止について最も適切な考え方はどれか。」に対し、回答「重いほど必ず瞬時に停止できる。」とした。

ア. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

イ. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

ウ. 悪天候時の運行可否判断の回答は誤り／停止距離（空走＋制動）の回答は正しい。

エ. 悪天候時の運行可否判断の回答は正しい／停止距離（空走＋制動）の回答は誤り。

答え・解説

正答：イ

ア：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

イ：正しい。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せと一致する。

ウ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

エ：誤り。実際の判定はA=誤、B=誤で、この組合せとは一致しない。

総合解説：Aは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。側面積の大きい車両は注意が必要。

Bは誤り。選んだ回答は誤答肢である。誤り。重いほど安全に即停止できるわけではない。

2つの論点を個別に判定した上で組合せを確定する。